



2024年7月17日

各 位

会 社 名 株 式 会 社 オ キ サ イ ド
代 表 者 名 代表取締役社長(COO 兼 CFO) 山 本 正 幸
(コード番号：6521 東証グロース)
問 合 せ 先 総合企画本部マネージャー 石 坂 美 保
(TEL. 0551-26-0022)

2025年2月期第1四半期 決算説明会の質疑応答（要旨）について

当社は、昨日決算説明会（アナリスト・機関投資家向け）を開催いたしました。ご出席の皆様からいただいた主なご質問を以下にまとめております。なお、理解促進のため、一部加筆修正を行い要旨として記載をしております。

Q. 株主総会でヘルスケア事業の中長期成長シナリオの説明があったが、第1四半期の売上高が好調だった理由はその成長シナリオに沿っているのか。

第2四半期からPET装置での新規顧客向けの売上が本格的に開始するとのことだが、どのような売上高の推移や成長シナリオを描いているか教えてほしい。

A. 第1四半期の売上高が好調だった理由は、一部顧客需要の前倒しが第1四半期の売上に寄与したものです。

こちらの資料は、株主総会でご説明したヘルスケア事業の中長期成長シナリオです。

がん診断用PET装置では、既存顧客でのシェアアップに加えて、新規顧客の開拓を進めています。

今期計画の策定時に、PET装置の新規顧客向けについて一定の売上高を想定しておりました。

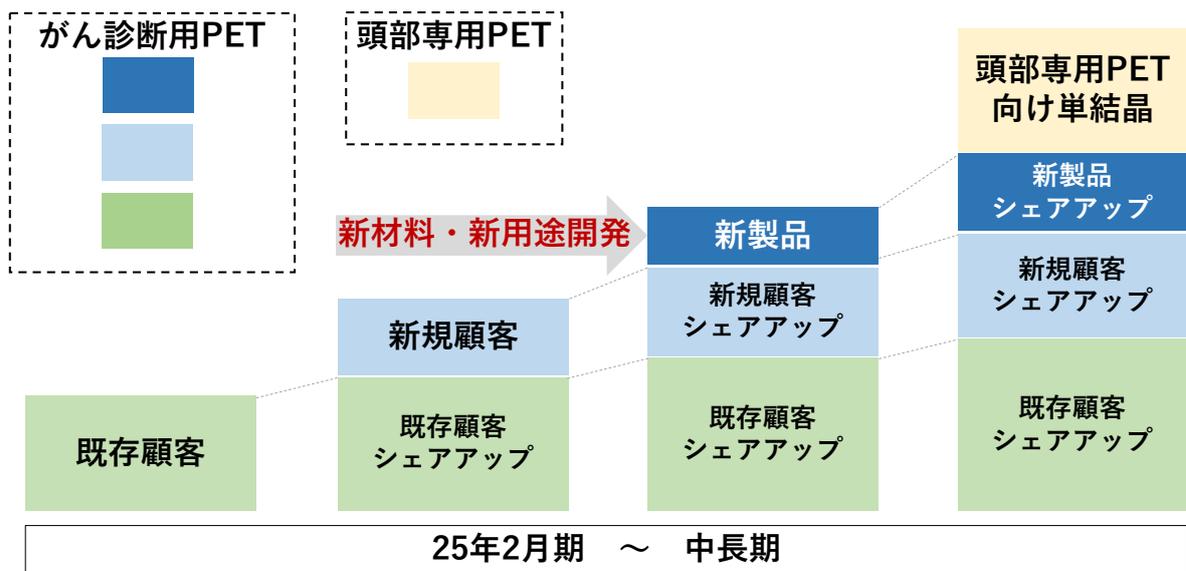
今後は新規顧客向け販売が加わることで、売り上げが伸びてくるものと予想しています。

更に、従来の主力製品であるLGS0単結晶以外に、新材料を用いた単結晶開発も進めています。

頭部専用PET装置に関しても、主要顧客と緊密な関係にあり、当社単結晶の引き合いは増加傾向にあります。

【ヘルスケア】中長期の成長シナリオ

OXIDE



Q. 直近の SiC 事業、溶液法ウエハの開発進捗について教えてほしい。

期待しているテーマであり、どの程度進捗しているか気にしている。

A. 当社は、今後の大きな成長が見込まれる SiC 単結晶の事業化に取り組んでいます。

本件は、NEDO の国プロであるグリーンイノベーション基金(GIF)事業による補助を活用し、溶液法と呼ばれる製造方法で、欠陥が非常に少なく特に高耐圧用途に適した SiC 基板の開発を目指しています。これは既存の昇華法では成し得ない高品質レベルの SiC 単結晶基板であるため、GIF 事業が開始した時点と比較し事業パートナーからの引き合いも増加しています。

GIF 事業においては、数年に一度、研究の進捗に応じてその後の補助を継続するか否かを決定するためのステージゲートが設定されており。当社は、事業開始後 2 年目に設定されている最初のステージゲートを通過いたしました。

現在、開発した SiC 単結晶ウエハのサンプル出荷を準備しています。

エピメーカーとの共同開発の模索や、デバイス、モジュールメーカーとの協議を通じて、実際に市場で求められる製品開発情報をキャッチし、市場参画を目指します。

また、SiC 単結晶事業を担う子会社を、オキサイド本体から独立させて設立する計画を 4 月に申し上げました。現在、設立の準備を進めております。これにより、資金調達の柔軟性を確保し、事業パートナーとの関係構築を図りながら、研究開発および事業化を加速させたいと考えています。

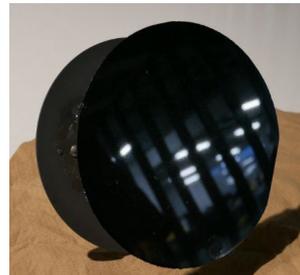
【新領域】 溶液法 SiC ウエハ進捗

OXIDE

- NEDOの国プロを活用し、昇華法では成し得ない超低欠陥SiC基板開発が進捗。2年目のステージゲートを通過しました。
- 2024年度 サンプル出荷開始予定。
- SiC事業量産開発を担う子会社設立予定。



SiC 開発拠点 (山梨第5工場)



φ 6 インチ溶液法
SiC ウエハ

Q. オキサイドで取り組むパワー半導体結晶について教えてほしい。
 特に、これまではSiCについては決算説明会等で説明があったが、β型酸化ガリウムについても取り組んでいると理解している。これらは同じ用途なのかなど説明してほしい。

A. 当社で取り組むパワー半導体単結晶としましては、溶液法を用いたSiCと、VB法を用いたβ型酸化ガリウムの2つがあります。SiCとβ型酸化ガリウムは、同じパワー半導体単結晶ですが、それぞれ特性が異なります。この為、使用される用途に違いがあります。

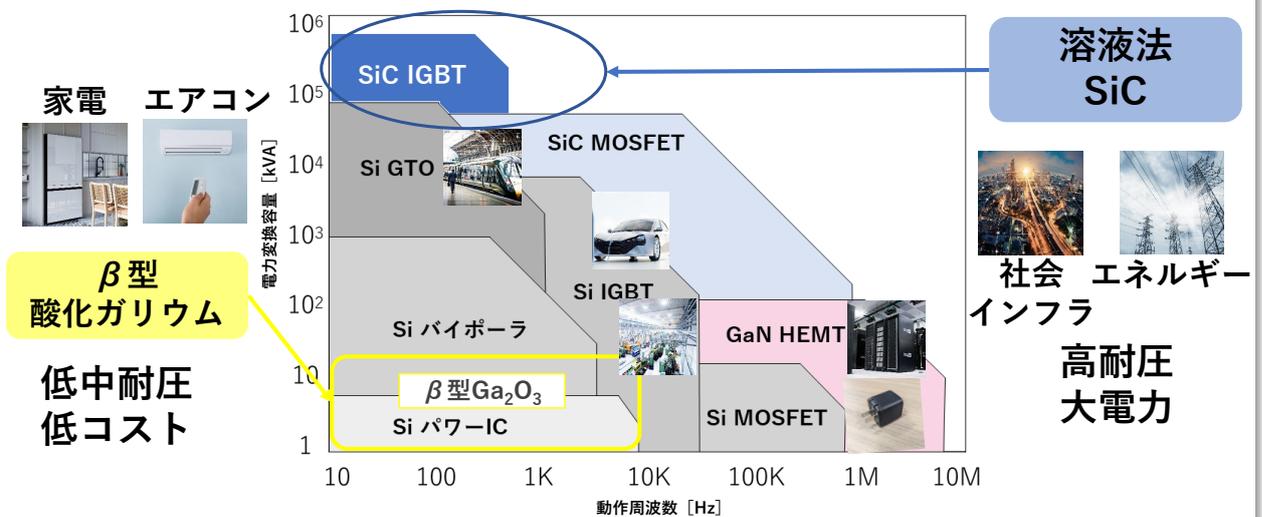
欠陥の少ないSiC単結晶につきましては、主に高耐圧の特性があり、エネルギーやインフラ分野等での応用が期待されます。一方、β型酸化ガリウム単結晶につきましては、次世代の家電等を含む低耐圧から中耐圧での応用が期待されます。

当社は、信州大学と京都大学が開発した低コスト製造法の量産化を目指します。プロジェクト着手からまだ半年程度ですが、単結晶開発に関しては当初計画を上回る進捗が見られます。

いずれの素材につきましても、省エネルギー対策や将来の私達の生活に欠かせないものであり、今後の市場拡大が予想されます。

【新領域】当社が取り組む2つのパワー半導体単結晶

OXIDE



Copyright: 2024 OXIDE Corporation. All Rights Reserved.

3

Q. オキサイドで取り組むパワー半導体事業のビジネスモデルについて、もう少し詳しく教えてほしい。海外メーカーが物凄い勢いで事業を拡大している環境下で、オキサイドを含めた国内メーカーに勝ち目があるのか説明してほしい。

A. こちらの資料は、株主総会で説明した、次世代パワー半導体における当社の事業モデルです。当社はバリューチェーン上流に位置する、SiC 単結晶基板と β 型酸化ガリウム単結晶基板の事業化を進めております。

β 型酸化ガリウム単結晶基板は、これからの成長が期待される材料です。

当社は、信州大学と京都大学が開発した低コスト製造法の量産化を目指します。酸化ガリウム単結晶は近年アメリカ、ドイツ、中国、韓国など、海外でも開発が着手されていますが、世界に先駆けて日本で研究開発がおこなわれてきた技術であり、現時点で日本が優位にあります。当社が保有する単結晶製造技術やビジネスノウハウを活かせる単結晶です。実際、プロジェクト着手からまだ半年程度ですが、単結晶開発に関しては当初計画を上回る進捗が見られます。

一方、SiC 単結晶基板は、次世代パワー半導体分野で成長が著しく、数年前の市場予測を更に上回る勢いで拡大しています。ただし、現在海外メーカーがシェアの大部分を有しており、国内のデバイスやモジュールメーカーが良質な基板を確保できないことが、経済安全保障の観点から課題となっております。このため、経済産業省を中心に国が支援を進めております。当社は日本メーカーの空白地帯である次世代パワー半導体基板分野への参入を目指します。

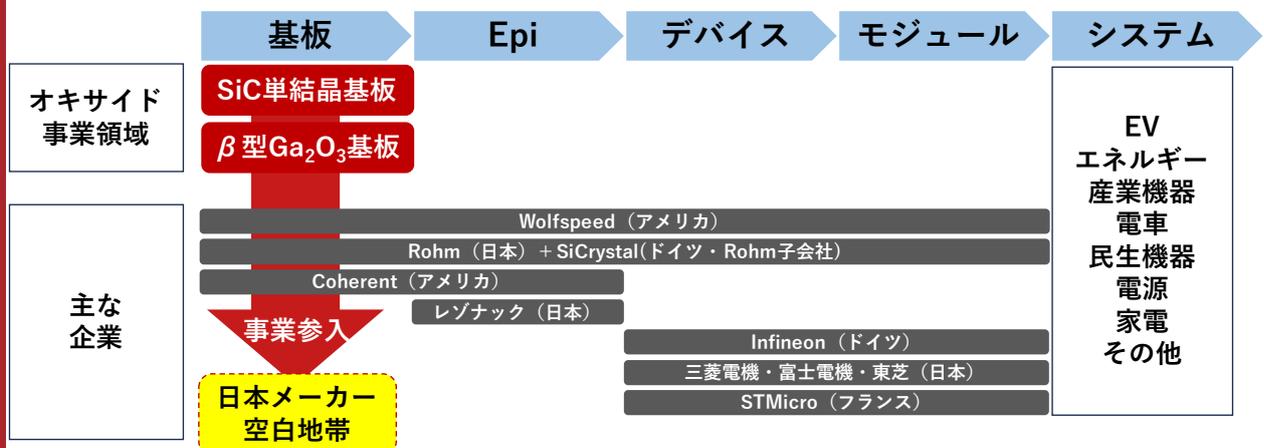
現在、エピメーカーとの共同開発の模索や、デバイス、モジュールメーカーとの協議を通じて、実際に市場で求められる製品開発情報をキャッチし、市場参画に向けた研究開発や事業課題の洗い出しに役立てます。

今後の展開と致しましては、これらの事業上のパートナーとの共同研究開発や業務提携等を通じて事業化に取り組んでいきたいと考えています。

【新領域】 当社のパワー半導体事業モデル

OXIDE

日本メーカー空白地帯である
次世代パワー半導体基板分野への事業参入を目指す



Copyright: 2024 OXIDE Corporation. All Rights Reserved.

Q. 量子分野の製品やその応用分野について注力されているが、昨年買収したライコル社とのシナジー効果は見られているのか。また、量子分野で協働している量子もつれ光源モジュールについて、何か事業として進展はあるのか説明してほしい。

A. 当社はライコル社と共同で、量子技術分野の研究開発用途向けに、量子もつれ光子対を生成する波長変換素子と光源を製造販売しております。波長変換素子に関しては、すでに世界各国の量子研究機関より、継続的に引き合いを頂き販売を進めております。量子もつれ光源に関しては、当社とライコル社の技術を結集しより付加価値の高い製品として開発を進めています。試作品ではありますが今年に入って具体的な引き合いを頂ける状況になりました。

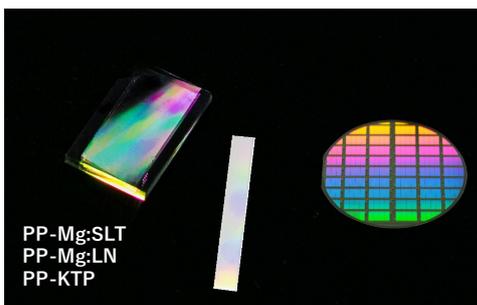
さらに、量子分野で当社が出資している LQUOM 社は、ソフトバンク社ならびにオプテージ社の商用ネットワークにて、量子通信技術の実証実験を開始しておりますが、それらの進展も今後の当社並びにライコル社の製品に対する需要の呼び水になると期待しています。

これらの波長変換素子や量子もつれ光源は、世界的に研究開発が加速されている量子センシングなど、幅広い応用分野での利用も期待されています。また研究開発については、当社とライコル社が共同で進める研究開発テーマを複数選定し、各テーマに両社から人員を配置し連携を強化いたしました。営業面では、当社とライコル社は、第1 四半期において国内2 件、海外2 件の計4 件の展示会に出展し両社の製品を顧客にセールスするなど、提携を加速しております。

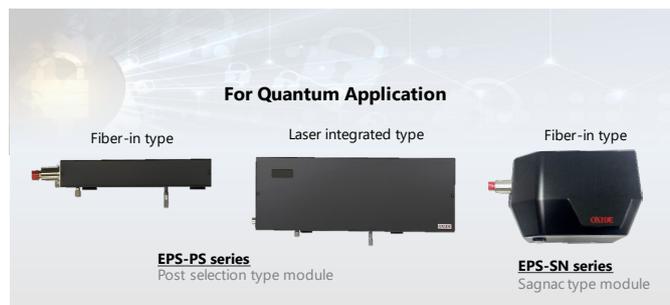
【新領域】 波長変換素子と量子もつれ光源モジュール

OXIDE

波長変換素子



量子もつれ光源モジュール



Q. 半導体事業での下振れに関して、無償修理対応増加が一因との説明があった。第2 四半期以降無償修理対応が減少する見通しだが、この背景を教えてください。

A. 当社レーザ製品の不具合がお客様で顕在化した場合、当社で一度引き取り修理対応しております。第1 四半期では、ファーストベンダー部材搭載レーザ製品において修理対応が増加しました。第2 四半期以降でこの修理対応がどうなるかは当社でも精査しております。昨年の第2 四半期以降、不具合に関する統計データを基に当社でのレーザ製品出荷前テスト基準を厳格化しました。第1 四半期で対応した無償修理は、この厳格化前に出荷したレーザ製品が対象です。今後修理対応が必要なレーザ製品は第2 四半期以降減少すると考えています。

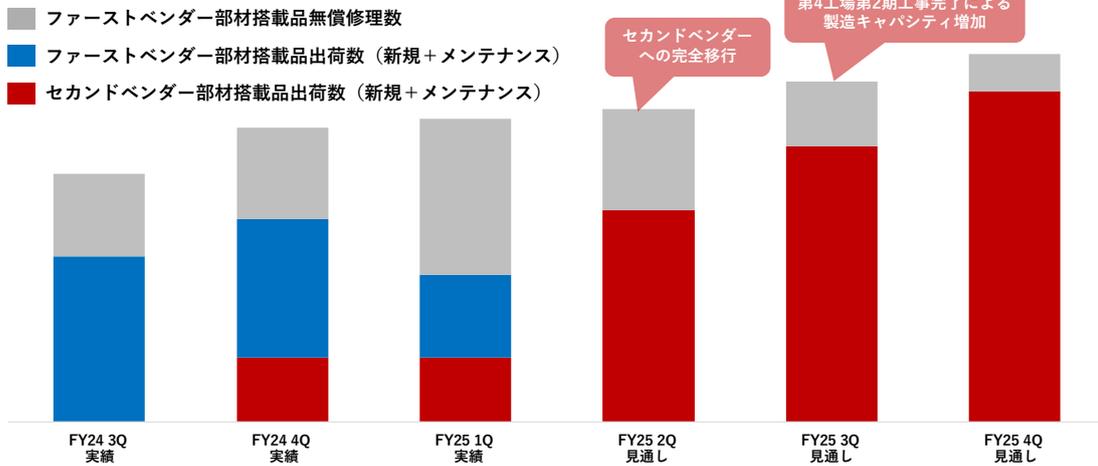
【半導体】主力レーザ製品：今後の出荷見通し

OXIDE

- セカンドベンダー部材の入荷は堅調に推移し、歩留まりも100%を継続しています。

2Qからセカンドベンダーへ完全移行の見通しです。

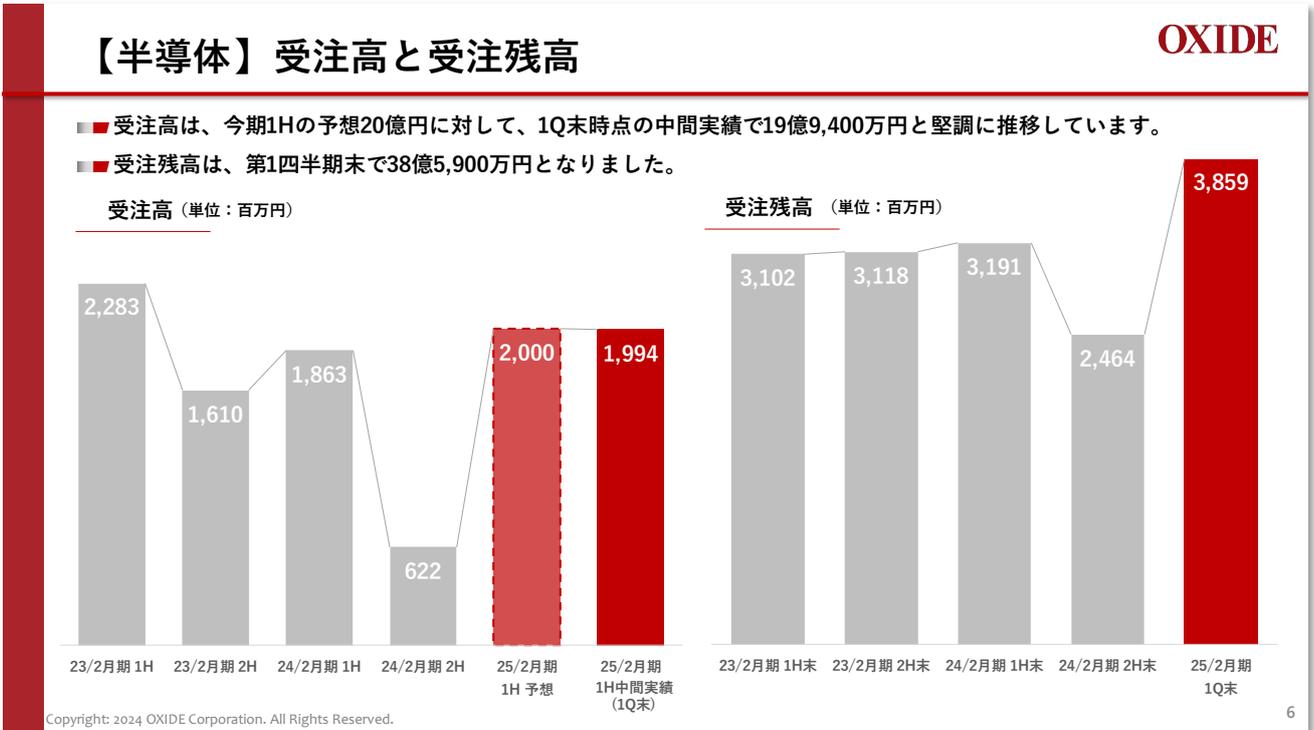
- 3Qから第4工場第2期工事完了により製造キャパシティが増加します。



Copyright: 2024 OXIDE Corporation. All Rights Reserved.

7

- Q. 半導体事業の受注高について、上半期での当初予想 20 億円は第 1 四半期の中間実績でほぼ達成と理解した。この順調な受注高から鑑みるに、今期の下半期の売上高は当初予想を上回る見通しとなるのか。
- A. 現在、セカンドベンダーからの部材入荷が堅調に推移しております。また、今年の 8 月頃に完了予定している山梨第 4 工場第 2 期工事によるキャパシティ増加を受けて、下半期は売上高の拡大し、現段階では通期の売上高予想通りを見込んでいます。



- Q. 第 2 四半期の見通しについて教えて欲しい。第 1 四半期の営業損失が当初予想より拡大したが、第 2 四半期は営業損失が若干残り、下半期で黒字化しリカバリーする見通しと考えればよいか。
- A. 第 2 四半期の見通しですが、セカンドベンダー部材入荷が増えること、修理対応が減少することを踏まえると、半導体事業では現時点大きな懸念は抱いておりません。ヘルスケア事業においては、先ほどご紹介した新規顧客の需要動向次第では、予想を上回る可能性も想定されます。一方で、新領域事業においては、イスラエルの不透明な情勢は続いているので、引き続き注視していきます。
- Q. イスラエル情勢については、具体的な懸念事項があるのか。
- A. イスラエル情勢においては具体的な懸念事項があるわけではなく、地政学リスク全体論としてお考えください。

以上